

津山中央病院 連携広報誌

2025年
7月号

メディネット



Vol.261



瀬戸大橋・四国側を望む（香川県坂出市）

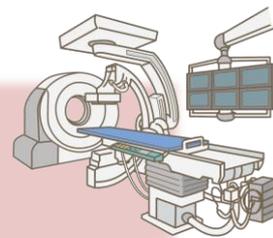
撮影 徳田名誉院長

私たち津山慈風会は、地域の皆さんにやさしく寄り添います

Topics

放射線科のIVRについて

放射線科の IVR について



放射線科 部長

かわばた たかひろ

川端 隆寛

専門分野

・放射線診断・IVR

専門医・指導医

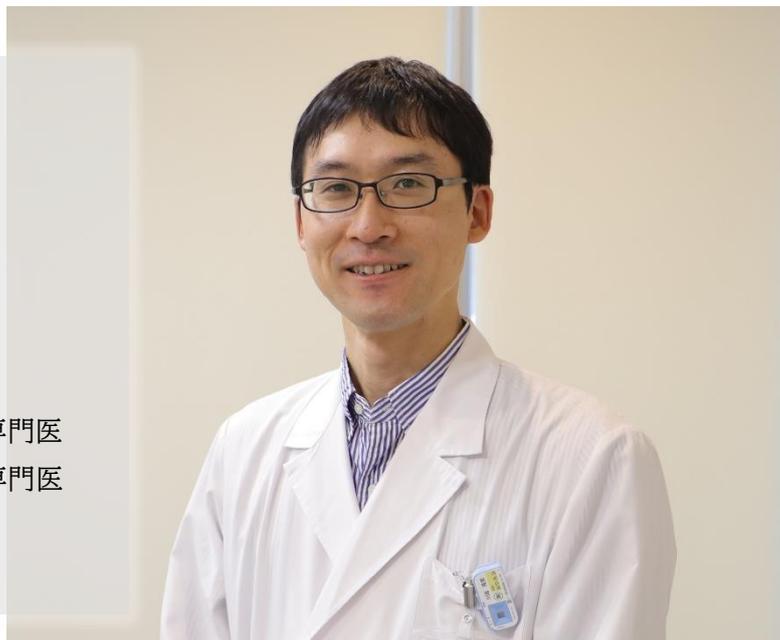
・日本医学放射線学会・

日本専門医機構認定放射線専門医

・日本医学放射線学会認定放射線診断専門医

・日本医学放射線学会認定研修指導者

・日本IVR学会認定専門医・指導医



† IVR について

IVR は「Interventional radiology」の略称で、日本語では「画像下治療」と呼ばれています。CT や X 線透視、超音波の画像で目的とする病変や血管、臓器をリアルタイムで確認しながらカテーテルや穿刺針などを用いて治療や診断を行います。

多くの手技は局所麻酔下で行われ、大きく体を切開する必要がなく、カテーテルや針が通る程度の小さな傷で治療が可能です。そのため、手術ができないような全身状態が悪い患者さんにも施行でき、非常に低侵襲です。また様々な出血に対する止血術などの緊急対応も可能であり、救急医療の分野でも病院の治療レベルの向上に役立っています。

† 放射線科の IVR について

IVR は大きく分けて、血管系と非血管系に大別されます。放射線科で主に行う血管系の手技には、外傷による出血や消化管出血、喀血、術後出血、産後出血などに対する経カテーテル的動脈塞栓術(TAE)(図 1, 2)や胃静脈瘤破裂に対するバルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)、CV ポート留置などがあり、非血管系では CT ガイド下生検(肺、腎臓、骨、軟部組織など)(図 3)や膿瘍ドレナージ(図 4)、肝細胞癌に対する陽子線治療前の金マーカー留置などがあります。放射線科の IVR は特定の臓器・分野に限らず様々な領域の疾患が対象となるのが特徴で、診断から治療に至るまで重要な役割を担っています。

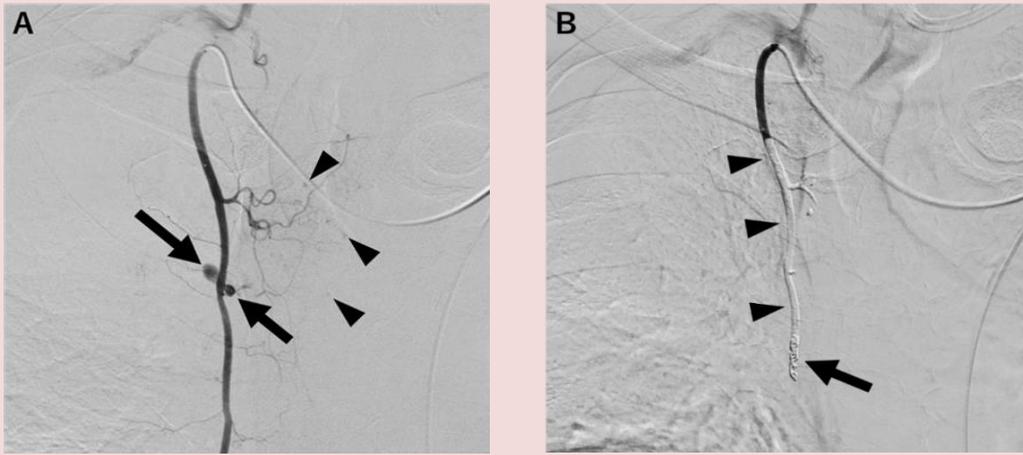


図1 多発外傷に伴う縦隔内出血に対する TAE (80 歳代、男性)

- A：右内胸動脈造影にて仮性動脈瘤（矢印）や微小出血を疑う像（矢頭）を認めた。
 B：右内胸動脈の仮性動脈瘤より遠位側をマイクロコイル（矢印）で塞栓し、末梢の血流をなるべく温存しつつ、仮性動脈瘤のやや遠位から微小出血が疑われる分枝の近位側までを NBCA（液状塞栓物質）で鑄型状に塞栓した（矢頭）。仮性動脈瘤や微小出血の消失を認めた。

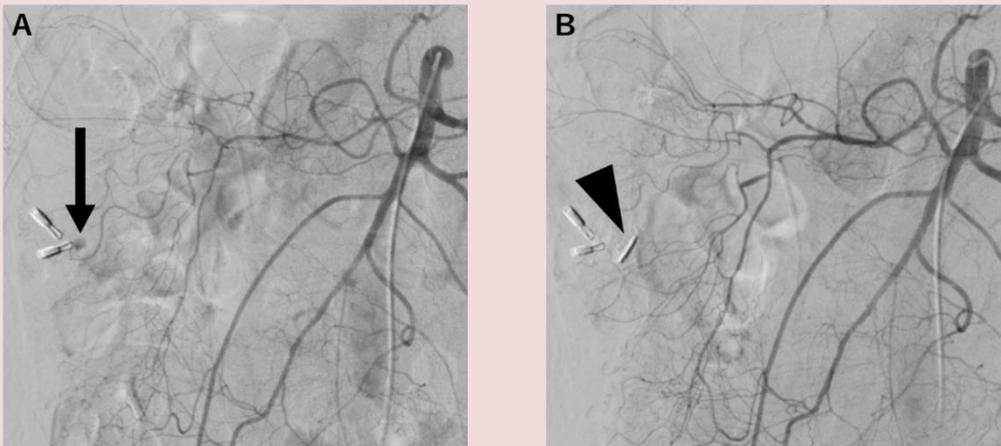


図2 上行結腸憩室出血に対する TAE (60 歳代、男性)

- A：上腸間膜動脈造影。矢印部分に血管外漏出像を認めた。近傍に内視鏡的止血によるクリップ 2 個あり。
 B：矢頭の如くなるべく出血点に近い部位で責任血管をマイクロコイルで塞栓し、腸管血流を可能な限り温存しつつ止血に成功した。



図3 CT ガイド下肺生検 (60 歳代、女性)

右肺上葉の結節に対して CT ガイド下針生検施行。Adenocarcinoma と診断された。



図4 CTガイド下膿瘍ドレナージ（70歳代、女性）

A：術前造影CT。胆嚢（矢頭）周囲に膿瘍形成を認めた（矢印）。

B：術中CT透視画像。CTガイド下に膿瘍腔へドレナージチューブ（矢印）を留置した。

C：術後フォローCT。膿瘍腔（矢印）の著明な縮小を認めた。

† 最後に…

県北唯一の放射線科IVRが施行可能な病院として、「診断から治療までを県北で完結させる」手助けができるよう、引き続き努力してまいります。当科（IVR部門）では病床を持っていないため、まずは病態に関連する各科にご紹介いただけますと幸いです。

セミナー・講演会情報

●CCセミナー（Web併用のハイブリッド形式）

講演 『貧血と婦人科疾患』 **※日本医師会生涯教育講座申請中（1.0単位：CC71）**

- ・講師 産婦人科 部長 佐藤 麻夕子 先生
- ・日時 2025年7月8日（火）19：00～20：00
- ・場所 津山中央病院 研修センター2F 講義室

●感染対策研修会 **※日本専門医機構認定共通講習**

講演 『病院全体で取り組むグローバル社会に必要な感染対策』

- ・講師 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 石金 正裕 先生
- ・日時 2025年7月25日（金）17：45～19：00
- ・場所 津山中央病院 健康管理センター3F 記念ホール